

平成22年度新人歓迎コンパ行われる

平成22年も半分過ぎる時期となりました。医歯大躰道部の新年度の活動も4月から始まり本年度は男子2名女子4名の新人を迎えることができました。彼らを歓迎する新歓コンパが例年と同様、6月12日(土)に新宿で行われました。本年は同日に私(柴田)の出身高校の同窓会が行われ、幹事となっていたため、私は二次会からの出席となりました。新人の方々から簡単なメッセージを頂きましたので、転載させていただきます。

医学科1年 石井遼子

今年から躰道を始めました、石井遼子です。今まで運動経験はなかったのですが、部活紹介での演武を見て躰道に興味を持ちました。練習ではまだ構えも満足には出来ませんが、先輩方の迫力ある動きを見る度に自分ももっと頑張って上手になりたいという決意を新たにしています。七大大会で他大の動きを見て躰道の奥深さを実感しました。これからも先輩に習い同学年と切磋琢磨しあって頑張っていきます。よろしくお祈いします。

看護学専攻1年 大久保美伽

看護学専攻1年の大久保美伽です。よろしくお祈いします。私は高校でバスケをやっており、大学ではバスケ以外の運動部に入りたいと思い躰道部に入りました。躰道はやればやるほど面白く、楽しんで部活に取り組んでいます。これからも優しく、ときに厳しい先輩方のもと、頑張っていきたいと思ひます。1年の間はとくに基本技を重点的にやっていきたいです。これからどうぞよろしくお祈いします。

医学科一年 柿澤佑実

医学部医学科一年の柿澤佑実です。躰道の存在は大学に入ってから知りました。目標はバク転を身につけること。友達に自慢してやります。せっかく医学生になれたので、躰道を通して体力をつけ将来に生かしたいと思っています。趣味は躰道、特技は躰道といえるよう励みますので今後ともよろしくお祈いします。

看護学専攻1年 小松崎大作

はじめまして。茨城県から来ました、看護科1年、小松崎大作です。自分は将来、海外での看護活動を考えております。そのためには母国の文化や伝統を学んでいなければなりません。今まで「武道」の経験が全く無かったのでやってみようと思ひ、探していたのですが、部活見学において先輩達の綺麗な演武に魅せられ入部を決めました。「常に向上心を持ち続け、限界を作らない」というのが今の自分の目標です。躰道を通じて日本の武道の精神を学べたらと思ひます。これからよろしくお祈いします。

医学科1年 相澤有輝

はじめまして、新入生の相澤有輝です。小学校の時に体操と空手をそれぞれ約3年ずつ習っていたので医科歯科に入って躰道に興味を持ち入部しました。実際に監督や先輩方からさまざまなことを教わり、ますます躰道のかっこよさを体感しているところです。もちろん基本的なことをしっかりとどんどん吸収していきたいのですが今は実戦がとても楽しみです。同じ新入生もたくさんいるのでお互い協力して高めあって行ければいいと思ひています。これからよろしくお祈いします。

看護学専攻1年 川畑めぐみ

こんにちは。今年躰道部にはいりました、川畑めぐみです。躰道部には友達に誘われて練習に参加しました。はじめは型も難しいし筋肉痛になるので大変でしたが、先輩方の優しさや同期の友達に支えられて入部を決意しました。最近ではやればやるほど面白い躰道の魅力にすっかり魅せられています。これからも大好きな先輩や仲間と共に充実した躰道ライフを送りたいです。

大会結果 * 東京城北地区躰道優勝大会 平成22年 6月27日(日)

詳細は躰道部ホームページ (アドレス: <http://tmdutaido.client.jp/>) をご覧ください。

女子団体実戦 2位 (笠原、折原、金崎、森、成相)
女子団体法形 3位 (金崎、森、成相、沼田、長谷)
男子団体法形 2位 (宮本、立川、戸島、清水、隈)
男子団体展開 3位 (堀内、隈、宮本、立川、戸島、清水)
個人法形競技 (捻の法形) 3位 (宮本)

*平成21年度会計報告

収入	前年度繰り越し金	1,368,347
	会費 (過去年度の追加分を含む)	490,000
	計	1,858,347 円

支出	現役部員援助	200,000
	通信、印刷費合計	26,000
	現役部員援助 (全日本出場義援金)	100,000
	高道先生生花代	15,750
	谷口セツ様生花代	15,750
	二代宗家生花代	15,750
	振込手数料	2,560
	計	475,810 円
	翌年への繰り越し金	1,382,537 円

昨年度も会費をお振込いただき、ありがとうございました。後述のように現役部員は昨年度の全国学生大会女子個人実戦で準優勝、また全日本選手権男子団体法形で3位入賞するなど奮闘努力し、結果も残しておりますので引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。昨年度会費を収めていただいたのは次の先生方です (順不同、敬称略)。

谷口興一、中島章皓、木下一郎、戸叶正淑、渡辺三雄、藤原秀臣 遠藤玲乃助、高江洲義英 鈴木晴司
日野恒和、岩永勝彦 山内英樹、奥村弘一郎、知花朝美、清水友、福本達、三壁敏雄、小川博章、戸塚慎一、宮崎隆、柴田俊一、佐藤準一、渡辺竜登美、役山比登志、小島雅浩、遠坂顕 篠原一彰、青木 章
布施泰子、岡部格、宮下宏紀、窪田亜希 飯村祥子 木村健太郎

なお事務局長多忙のため、本年度より飯村祥子、江川京子 (ともに平成19年看護学科卒) の二人に会計補佐として手伝ってもらうことになりました。併せてよろしくお願い致します。

* 転居先不明の先生方

下記の先生方は転居に伴い現在連絡先が不詳となっています。もしお心当たりがありましたらメール等で事務局までご一報ください。

中島康雄 下田益弘、佐藤栄吾 叶内 匡 鹿島田 健一 板倉 潤 金井美愛子 藤井敦子 井原信麿 新倉名緒子

〈はじめに〉以前「医歯大躰道部フリーハンデ実戦編、法形編」を上梓したことがあります。フリーハンデとは競馬界に存在する考え方で「すべての馬が同じレースに出走した場合、どの馬にどのくらいハンデをつけるか。」が基準になっています。したがって強い馬程ハンデが重くなり、該当数も少なく、弱い馬程ハンデが軽くなり該当数も増えるということになります。そして毎年フリーハンデを作成し世代間での比較も行っています。昨秋の全国学生躰道優勝大会で笠原里奈(当時歯 5)が女子個人実戦準優勝という快挙を成し遂げてくれました。その快挙を見るにあたり、彼女を基準にすればフリーハンデ「女子実戦編」が作れるのではないかと考えるのが浮かびました。女子に実戦競技が導入されたのは平成2年のことであり、間もなく20年になりますが、当初と比べると女子実戦全体のレベルも格段に上昇しています。考えてみれば競走馬と同様に歴代部員をレーティングするのはたいへん失礼なことかも知れませんが、過去の部員の業績はともすると忘れがちになるので、それを風化させないためにも意義あるものではないかと考えます。私は3年半前に北海道医療大に移ったため、卒業直後の部員や現役部員の実力に関しては分からないところがあり、一部監督らに聞いたところもありますが、すべての文責は私にあります。「なぜ私があの人より下なのか」という物言いは当然あると思われませんが、オヤジの戯れ言と考え大目に見ていただくと幸いです。

以下対象は女子実戦が導入された時期以降の部員で、姓は旧姓、MDNT はそれぞれ医学部、歯学部、看護科、検査科、数字は卒業年(平成)を示す。医歯大以外からの部員も同様に表記してある。また現役部員は医、歯等学部名と学年を示している。

- 63 笠原(歯 6) *片山(2M)
- 62 林(20M) 江川(19N)
- 61 三宅(17M) 成相(医 4)
- 60 窪岡(17N) 寺山(17N) 佐々木(21M)
- 59 越田(4M) 松尾(14M) 吉田(8N) 池尾(21D) 渡辺麻(17N) 渡邊聡(22N) 三枝(22N) 金崎(歯 5)
- 58 野中(8T) 金井(8T) 藤井(8N) 戸田(10N) 原口(14M) 窪田(19T) 飯村(19N) 喜多(17M) 森(医 5)
折原(医 5)
- 57 その他全員

〈解説〉昨年の学生大会女子個人実戦準優勝の業績はやはり大きく**笠原**が63でトップにランキングされました。笠原は私が監督として在籍した最後の年(平成18年)に入部してくれた部員であり、空手の経験があるとのことで、確かに突き、蹴りには当初から鋭いものがあつたのは良く覚えています。その後の成長に関しては、私自身は転任したためよくわからないところですが、戸出前主将によると、「攻める続けることしかできない単調な実戦が課題でしたが、今回一步引いて相手を良く見ることが意識できた。」のが好成績につながったとのことでした。昨年の試合は私も観戦しており、準決勝くらいで男子の技に全く引けを取らない「旋状蹴り」でポイントを挙げたのには大変感心させられました(もしこの時のビデオが残っていれば是非保存して参考にさせていただきたい)。実戦競技の場合やはり自分から攻めて行ってポイントがとれるというのは、見る方も楽しいことだけでなく、躰道は「新技の創作」という事を一つのテーマに掲げているのでその点からも重要な事であると考えられます。本年は歯学部6年ということで、臨床実習やまた近年難化している国家試験も控えているので、たいへん厳しい状況であるとは思いますが、今後さらに卒業後も活動が続けることを希望しています。

次いで62にランキングされた、**林、江川**は個人実戦での好成績はないものの、東京城北あるいは千葉県チームの一員として、女子団体実戦全日本選手権優勝の実績があります。二人とも空手の経験があり、技は当初から兩人とも鋭いものがありました。実戦の型は少し異なっています。林はどんな相手と対戦する時も決してひるむ事なく立ち向かい、細かい技や駆け引きよりも気合いで勝負するタイプであったと思います。その彼女の良さが最大に発揮されたのが、第38回全日本選手権大会での活躍で、この時の試合は私が競技監督として間近で見っていたのでたいへんよく覚えています。全試合を通じて2勝か3勝をあげ、その貢献度もたいへん大きいものでした。彼女は実績によりスウェーデンでの世界大会にも派遣されています。江川は攻撃も防御もできるオールラウンドプレイヤーで実戦競技向きの選手かと思いましたが、本人に直接聞いたわけではないのですが、どちらかという法形の方にこだわりがあつたようで、そちらに力を注いでいました。彼女の力量が本当に発揮されたのは卒業後に中野館長が率いる千葉の「己練館」に参加し

てからで、多忙な社会人となって練習時間の確保はたいへんだと思われませんが、己練館女子の主力メンバーとして昨年度の第 43 回全日本選手権の女子団体実戦で見事に優勝に輝いています。このレーティングは個人実戦の結果を重視しているので、両者は笠原より下になっていますが、本当のところどちらが強いかわからないところがあります。江川はまだ現役で試合に出ていますので、何かの機会に笠原対江川をぜひ見たいものです。

次いで 61 にランキングされた**三宅**は霍岡、寺山、渡辺麻らとともに聖路加大学から部活に参加してくれたメンバーの一人で、私の記憶に間違いがなければバレエ(踊る方)の経験があり、体はたいへん柔軟ではあったものの、比較的体格も小柄で武道の経験はなく、当初はあまり目立つ存在ではなかったと記憶している。彼女の長所であり次第に実力を発揮していった理由はいわゆる「動体視力」がすぐれていることであつたと思われまふ。つまり相手の出す技を見切つてかわす事が容易にできるという点である。相手の技が見切れれば少なくとも負ける事はないわけで、その特性を生かして城北地区大会の個人実戦では強敵を相手に準優勝の実績をあげています。また林ほどの活躍はなかつたものの、全日本選手権大会優勝時の城北チームのメンバーであつたことも追記しておきたいと思ひます。**成相**は現役部員で私が転任してから入部し活躍している選手のため、個人的にはよくわからない点もありますが、監督らの話を聞くと、力強い実技をもち、相手の技にはひるまないというような長所を持つ選手であるとのこと。もちろんこのランクは暫定的なものであり、今後の活躍ではさらに上昇することは言うまでもない事であり、健闘を期待しています。

60 にランクされた**霍岡**は聖路加勢の中では一番実力はあつたと感じており、もちろん展開の主役も務めましたが、実戦競技に関して言えばもう一息のファイティングスピリットあればと惜しまれる点もあります。同期の**寺山**は最後の年に残念ながらけがをしたため目立つた活躍はなかつたが、遅れて受験した審査会では他校の有力選手を圧倒する実戦を見せていたため、相当な実力があつたのではないかと密かに評価している次第です。**佐々木**は上述の江川を始め、飯村、窪田、池尾らの同期で大変部に貢献してくれた世代であるが、当初は全く勝てなかつたものの、学年を経るにつれ次第に結果も出せるようになり、何よりも私が医療大に赴任後に医療大の部員と対戦して勝利した憎き相手?でもあるので特にここにランクさせていただきました。59 にランクされた面々の中では**越田**は女子実戦の黎明期にがんばってくれたこと、**松尾**は剣道部史上初の女子主将として貢献してくれたことなど、功績を評価したこともあります。そのほかの 59 と 58 では実質的にはほとんど差をつける意味はなく、どちらかというとなりよりも実戦向けではなかつたか、と思われる選手を 59 にしています。もし法形のフリーハンデを付けるなら、原口、窪田、飯村、喜多らは間違いなく上位にランクされるでしょう。最後に特別ランクとして**片山**を笠原と同列に評価したいと考えます。女子に実戦競技が導入されたのは彼女が卒業して間もなくの事なので、もう数年遅く入部していれば相当の確率で学生チャンピオンになっていたと思われまふ。本当にタイムマシンが実用化されれば笠原対片山を是非見たいものだと思います。

調べて見ると剣道部フリーハンデ実戦編を書いたのは 2002 年の事だとわかりました。その後の部員の活躍を記録するためにも近々改訂版を作成したいと考えています。もし先生方に意見を伺う機会がありましたらよろしくお願ひ致します。